

おおお かえちぜんのかみただすけ

大岡越前守忠相って

こんな人!



テレビドラマ「大岡越前」の主
人公としても有名な大岡
忠相は、八代将軍・徳川吉宗
の時代に41歳という若さで
江戸南町奉行に大抜擢され
越前守を名乗りました。
職務熱心で非常に几帳面な
人物であったといわれていま
す。また、奉行として権威を
ふるうことはなく、裁きも
言葉をやや柔らかくし、分かりや
すく行いました。
常に庶民の暮らしを考え、
町民生活の隅々まで見通し
た明快で公平な裁き「大岡裁
き」で町民の心をつかみま
した。72歳の時に一萬石の
大名となり、西大平(愛知県
岡崎市)に陣屋(屋敷)を構え
ました。

町奉行から大名となったの
は江戸時代を通じて大岡
忠相一人だけであり、極めて
異例です。そして75歳でこの
世を去りました。

現在、浄見寺(茅ヶ崎市堤)に
眠っています。

「大岡裁き」とは?

大岡忠相が人情に厚く、公正な裁きを行ったことから、公正で人情味のある裁定や判決のことを言います。そんな大岡忠相を庶民の味方、公正な町奉行として登場させたのが「大岡政談」です。この物語は、大岡忠相の没後に作られ、現代に伝えられているものの多くは、実際は大岡忠相が裁いたものではないそうですが、大岡忠相がいつまでも庶民の間で名奉行として慕われていたことがわかります。今回は、その大岡政談の中から「三方一両損」をご紹介します。



おおおかえちぜんのかみただすけ おも ぎょうせき
大岡越前守忠相の主な業績

ちょうにん まちびけ
 町人による町火消(いろは四七組)を編成し、消火活動にあたった。

はちだいしょうぐんよしむね
 八代将軍吉宗の意を受けて、小石川療養所の開設運営にあたった。病気になる困窮者を入院させ、薬を与えたりした。

しょみん ようきゅう ふまん
 庶民の要求・不満などの投書を受け取るために、評定所の門前に箱を設置した。

けんにん かんとうじかたごよう
 兼任していた関東地方御用掛として、武蔵野新田の開発を推進、82ヶ村、総石高にして12,600石の大規模開発を成功させた。

かくまち とごみ取りの請負を
 各町でごみ取りの請負をしていた収集人から出された組合設立の申請を許可し、独立権を与える代わりに、江戸城の堀の清掃をさせた。

えど りゅうつう きんか
 江戸で流通する金貨と、上方で流通する銀貨の相場
 の安定を両替商に指導した。

なぜ茅ヶ崎市と岡崎市(愛知県)が「ゆかりのまち」として提携しているの？

大岡一族が眠っている浄見寺に大岡忠相も眠っています。大岡忠相が72歳の時に、一万石の大名となり、西大平(岡崎市)に陣屋(屋敷)を構えました。これが縁で茅ヶ崎市と岡崎市は「ゆかりのまち」として提携するようになりました。



おおおかただすけ ねむるじょうけんじ
大岡忠相が眠る浄見寺

浄見寺は大岡忠相の先祖、大岡忠政が徳川家康から現在の茅ヶ崎市堤を与えられ、陣屋(屋敷)を構え、大岡忠政の父ら家族の霊を供養するために建てられました。現在も大岡一族が眠っています。浄見寺境内の寺林は、神奈川県の大天然記念物に指定されており、タブノキ、スダジイなどの大径木がうっそうとした樹林を形成しています。

大岡家の家紋は銀杏の実をあしらったもので「剣輪違」とよばれています。